

11、DTP ターボサーバーV6 で実現する次世代デジタルデータ運用管理

株式会社ビジュアル・プロセッシング・ジャパン
印刷・出版システム事業部 関 郷

デジタルによって変革する印刷デザイン業界におけるビジネスモデルや、制作ラインにおけるワークフローの効率化とコスト削減、営業における顧客への新たなサービスの創出は全て、制作ラインでのフルデジタルフローに左右される。その中で最も重要なのが、基盤となるセンターサーバーワークフローとデジタルデータの一元管理が行えるシステム構築である。

今回紹介する DTP ターボサーバーV6 は「ファイルサーバ機能」「スプール機能」「バックアップ機能」「WEB ファイル管理機能」「データベース機能」がシームレスに連携し統合されたサーバーシステムであり、上記システム構築を満たす唯一のサーバーシステムである。

下記に、何点か特徴を列記したので、スライドの参考にさせていただきたく思う。

1. DTPターボサーバーにはまず、ネットワークの集中を回避するためのFPOという仕組みが組み込まれている。FPO はオリジナルデータのエイリアス(コピー)であり、レイアウト作業で当たりをつけるための極端に低解像度のデータである。一般的なスキャニングされたデータはすぐに数十 MB のサイズになるが、FPO はたった数 KB にしかならず、複数のオペレータが同時にアクセスしてもサーバの処理能力には影響しない。
DTP ターボサーバーのサーバベースワークフローではデータをダウンロードせず、サーバに直接アクセスをしてそこでネットワーク越しに作業をする。作業が終わればそのままそこに保存。だからオペレータの PC に大きなディスクは必要とせず、おまけに余計なコピーも残らない。出力するときはもっとシンプルであり、画像データはサーバ上にあるので画像データをあえて送る必要はない。オペレータは画像を省いてレイアウト情報を送れば、サーバが自動的にオリジナル画像を貼り付けて出力機に送られる。当然出力機へのスプール処理があつという間に終了してしまう。一般的に 100MB の DTP データのスプールには十数分必要になるが、DTP ターボサーバーのサーバベースワークフローでは数秒で終わるので基本的にオペレータの待ち時間がゼロになる。また、サーバにオリジナルデータが常に保存されるので外部にデータを持ち出して戻されたときも画像のリンク情報を取り直すことが簡単にできる。外注先にデザインやレイアウトを依頼するケースでは非常に有効となる訳だ。
2. デジタルデータは使いまわしも自由である反面、オペミスやシステムの不具合で消失する事も多々起こる。そのためバックアップすることが重要になる。DTP ターボサーバーではデータは全てサーバ内にあるのでサーバが自動的にデータを外部のテープ装置にコピーする。ディスクのデータに問題が出たときはテープから戻して直ぐに使用できる。また、ディスク内の古いデータを外部のテープや DVD に吸い上げてディスクから消すことをアーカイブというが、DTP ターボサーバーではアーカイブされたデータもブラウザからプレビューを確認することができます。アーカイブデータを使いたいときは、テープを装着してディスクにリストアするだけでよい。基本的なサーバベースのワークフローだが一般的なファイルサーバでは無理である。このように DTP ターボサーバーは非常に付加価値の高いサーバシステムなのである。
3. DTP ターボサーバーのファイルシステムはブラウザベースである。あらゆる画像はプレビューで確認可能だ。従ってインターネット経由でサーバの中のデータを見てダウンロードする事も簡単にできる。もちろんアップロードする事もできるので外注先や顧客、そして事業所間のデータのやり取りにも大変有効である。また、ファイルサーバに保存されているデータはデータベースに拡張できる。キーワードを付加することにより多様な展開が可能になる。
インターネットとデータベースは IT のキーワードの最右翼である。あらゆる業種がそこに注目している。DTP ターボサーバーに蓄積されたデジタルデータはインターネットとデータベースを駆使することによりさらにビジネスの可能性を広げる材料となりうる。

ここまでが DTP ターボサーバーを使ってデータを集めて管理する理想的なサーバベースワークフローの説明である。サーバベースワークフローはDTP制作におけるデータ管理の生産性を明らかに向上させるものである。

このように、データを集めてしまえば顧客との接点が無限に広がってゆく。DTP ターボサーバーはデータを集めて管理する仕組みと、それを情報として活かす仕組みを併せ持っている。これらの機能が独立したサーバの考え方はDTPシステムには向いていません。セキュリティ上、サーバとして物理的に二つの役割を分けて設置することは十分考えられるが、システムは一つである。なぜなら全てのデジタルデータの起点は制作ラインにあり、最も無駄なくデータを集めることができるからである。

今回の内容は、PAGE2005 の弊社ブース(文化会館 4 階、ブース No.D-19)にて詳しく紹介している。DTP ターボサーバーの最新バージョン V6 の新機能を中心に、コスト削減やワークフローの効率化、コンテンツ管理の重要性和効果的な運用方法についてじっくりとご紹介している。自社のワークフローやデータ活用を見直す機会として、是非弊社ブースにて行なわれるステージデモをご覧いただきたい。

DTP ターボサーバーについてのお問い合わせ先:
株式会社ビジュアル・プロセッシング・ジャパン 印刷・出版システム事業部
東京都渋谷区南平台町 16-25 養命酒ビル 11 階
TEL 03-5784-1183 FAX 03-5784-1184 <http://www.vpi.co.jp/>
PAGE2005 VPJ ブース:文化会館 4 階 ブース No.D-19